

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要（事業所記入）〕

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	平成22年5月14日	評価結果市町村受理日	平成22年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503601&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要（評価機関記入）〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年5月24日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）〕

「笑顔と思いやり」が常にあるように職員は努めている、縁があって住んでいる利用者様が「よかった」と安心していただけるように支援し、ご家族の方々にも満足いただけるように傾聴できる姿勢で、無理もきくことができるグループホームを目指している。

利用者様の可能性が引き出せるよう、興味のあること望むことへの支援と外出を多く取り入れている。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）〕

「グループホームほのぼの月寒」は、医療機関や商店など生活環境に恵まれた静かな住宅地に位置している。施設長と職員は利用者一人ひとりの会話を大切に共に時間を過ごし、個々に応じたケアを常に心掛けて支援を行っている。今回、自己評価を個別に取り組む事で職員は日々のケアを振り返り課題意識を高め、より良いケアに繋げられるように更に学びを深めている。利用者の馴染みの人や場所との関係の継続支援にも力を注ぎ、利用開始前の町内会の行事やカラオケなどの趣味が継続できるように充実した支援を行っている。個別の外出にも力を入れ、外食や買い物など利用者の希望に応じた支援も積極的に行っている。また、地域密着型サービスの理念の実践に向けて日頃から挨拶を心掛けて地域住民と交流を行い、事業所の夏祭りには近隣住民の参加も増え、今年度は町内会も店を出す予定が立てられているなど、施設長や職員の日々の努力により地域との繋がりが更に深められている。利用者は地域住民の一員として穏やかな生活を送ると共に、明るい笑顔で会話を楽しみのびのびとした日々を送っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
		☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない			☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
		☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
		☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
		☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
		☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『笑顔と思いやり』 笑顔を持って、明るくほのぼのとした雰囲気 を全職員が実践している。	「笑顔と思いやり」の理念を柱に「地域との繋がりを大切にし、地域での需要に応えながら、地域に密着したグループホームをめざします」という項目を掲げ、地域との繋がりを大切にしながら、日々利用者の笑顔を引き出すようなケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のごみ清掃や 新年会・婦人部の集まりに参加させていただいている。	町内会の新年会やお茶会に利用者と一緒に参加したり、事業所の夏祭りに地域住民を招待して交流を深めている。また、近隣の人が訪問したり、買い物に出かけてお茶やコーヒーをご馳走になるなど、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行う夏祭り等へ参加していただきグループホームの存在を知っていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の回数自体が少ないが、近隣や利用者、職員は常に前向きに考えてサービスの向上に努めている。	前年度は、家族の参加は得られなかったが、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者が参加してスプリンクラーの設置に関する議題で1回開催している。今年度は、認知症などを議題に取り上げ定期的に開催する意向である。	今年度は、災害援助や外部評価なども議題に取り上げ、定期的な運営推進会議の開催と家族の参加が得られるような働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携と言えるレベルではないが、指導もしくは相談をしている。	施設長は区役所に週1回程の頻度で訪問して保護課の担当者と話をしたり、電話での相談なども行っている。市役所にも年間数回訪問して相談を行うなど、市町村の担当者と連携を取りケアの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に行った職員により伝達講習をミーティング時に行っている。	身体拘束についてミーティングで常に話し合ったり、好ましくない言葉かけなど気付いた時は施設長やリーダーがその都度注意するように心掛けている。玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は自由に外出できるようになっている。玄関にセンサーを設置して外出を把握し、安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に行った職員により伝達講習をミーティング時に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行った職員により伝達講習をミーティング時に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居前に時間をかけて家族に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は、他の事業所などに聞いたり見学をさせていただき、可能な限り実現に努めている。	家族が訪問した時は、利用者の日頃の様子を積極的に話して家族が意見や要望を言いやすいよう配慮している。話の内容により、事務所で個別に話を聞いたり自宅を訪問して話をするなど、話やすい環境作りに配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒヤリングを職員から行っている。	施設長は常に「何か困っている事はないか」と話かけて、職員が意見を言いやすいように配慮している。職員も施設長やリーダーには意見を言いやすいと感じており、利用者が生活しやすい環境作りを目指して意見交換を日々行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境の整備を十分ではないが努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分ではないが努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者と情報交換し職員を見学させたり、見学の受け入れをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に傾聴する姿勢を創っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームで望むことを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の求めているもの要望を常に見極めて支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだであるが、共に暮らす関係を築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換や、情報を共有することにより、利用者にとってより良い生活支援を提供出来る様に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や来設された利用者の皆様には家族のように接している。	利用者の希望に応じて、美容室やスーパーなど馴染みの場所に個別に出かけられるように支援している。お彼岸や命日には納骨堂にお参りに出かける利用者もいる。また、友人の訪問を家族のように受け入れて、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に支える体制である。 違うユニットの利用者同士の交流も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去されて、医療機関にて治療されている方には見舞ったり、他界された方には焼香させていただいたりといったお付き合いをさせていただいている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとる様になっている、困難な時は表情を観察している。	殆どの利用者は会話による意思疎通が可能であるが、表現が困難な利用者の場合は、ミーティングで利用者本人の立場になって考え、全職員で検討して思いや希望を把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話などで、お話し頂ける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録で確認出来るようになっている、変化があった時はその都度対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望を第一にセンター方式を利用し介護計画を作成している。	新規介護計画は家族からの情報や本人の思い、意向を聞いて作成し、1ヶ月後に見直しを行っている。定期的な介護計画は3ヶ月毎に見直しを行い、怪我や精神面などで変化が生じた時は全職員と計画作成者で検討して随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、申し送り時にも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に応じた外出の希望に柔軟に対応している、外食にも出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、商店、買い物、スーパー、ドライブ外出などを通して、地域資源を活用		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関への受診が行えるように支援している。	かかりつけ医の受診継続は可能であり、家族の状況により事業所で受診送迎を行っている。内科、歯科の定期的な訪問診療も行われている。各医師と電話や記録で連絡を密にする事で、利用者が常に適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師はいませんがリーダーや管理者の対応で提携医療機関のDrかNsに連絡を取り相談・指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後のリロケーションダメージを少ないよう、見舞ったりして、早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームから医療機関へいかれることが大半であるが、十分な話し合いを設けて支援している。	利用開始時に、家族や本人に継続的な医療行為が発生した時は事業所での対応が困難である事を説明しているが、書面による確認は行われていない。現在は利用者の状況に応じて、家族や関係者とその都度話し合いを行い、対応を検討して行く事になっている。	医療連携加算に向けて、重度化や終末期に向けた事業所の方針を作成する意向なので、その取り組みを期待したい。また、書類作成後は家族と利用者に書面で説明を行い、内容をお互いに共有できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会等に参加し実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。	災害時マニュアルと職員の連絡網を整備している。今年度は、4月に消防署の協力の下、地域住民に訓練の様子を見学してもらい夜間想定避難訓練を実施している。今後は、実際に住民参加の避難訓練を実施する予定である。	今後は地域との協力体制を整備し、災害種別に応じた避難訓練の実施と災害備蓄品の確保を期待したい。全職員の救急救命訓練の受講を計画的に行う予定なので、その取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保、業務上で知りえて秘密の保持に努めている。	ミーティングの場で利用者の尊厳について話し合いをしており、利用者との馴れ合いで生じる言葉遣いや声かけなどに注意を払いながら対応している。家族からの情報なども漏らさないなど取り扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	その方のレベルに応じた対応で少しでも自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先してしまうこともあるが、出来るだけその方のペースを大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ、身だしなみには気をつけている、訪問理美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、調理、片付けを一緒に行っている。	積極的に毎食調理に参加する利用者もあり、食器拭きや下膳など食事への関わりを大切にしながら職員と一緒にやっている。季節毎の行事食や全員での外食、誕生会に好物メニューを提供するなど食生活に変化をつけて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスのとれた献立表に基づき調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性は理解しており、その方の応じた対応をしている。 訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを理解して支援している。	日中は排泄チェックが必要な利用者のみ介護記録に記入し、夜間は全員分の記録を行っている。一人ひとりのパターンに応じた個別の誘導を行い、声かけは小声で他者に気付かれないように留意している。自立排泄の利用者が多い状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などの内服薬等に頼らないよう、乳製品や食物繊維等の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ずご本人に声を掛け希望に沿った、入浴時間に入浴していただいている。入浴剤を活用し温泉気分を楽しんでいただいている。	曜日を問わず午後の時間で設定し、利用者の希望や状況に合わせ柔軟に支援し、一人の入浴毎に湯を交換している。入浴拒否が多く見られる場合の対応策の一つとして、改めて実施状況記録整備に努める予定となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が、安心して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はさせていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が楽しみを持った日々が過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は本人の希望で行っている。	一人ひとりの希望をかなえる個別外出支援に力を注いでおり、利用者の行きたい意志を尊重し職員と共に出かけている。近所のお店で散歩がてらお茶やコーヒーを味わい、玄関先でのんびりとした日光浴、外食、スーパーでのショッピングなど、自由に外出できる環境を整えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対する支援の大切さは理解している。家族や本人の希望がある方は、ご本人に所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話が出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気空調にきをつけている。 居間や廊下には、季節を感じとれるような、レイアウトをしている。	リビングダイニングルームは明るく、全員で団欒できる広さがあり、季節感を醸し出す職員手作りの花々や絵画がさりげなく装飾され落ち着いた空間となっている。スロープを設置した玄関の他、洗面台やトイレはそれぞれ2タイプ設けており、身体機能に応じた設備が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・玄関先にベンチを置いて、気のあった人が話を出来るように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用していた、なじみの家具を置いて使用されている。	居室入口に利用者の写真が飾られ見当識への配慮が見られる。室内は思い出の写真や利用者の手作品を装飾し、使い慣れた調度品、仏壇、家具を置いている。その都度、家族や本人と相談しながら安心できる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何気なく、見守りや声掛けをしている。		

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	平成22年5月14日	評価結果市町村受理日	平成22年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503601&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年5月24日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

「笑顔と思いやり」が常にあるように職員は努めている、縁があって住んでいる利用者様が「よかった」と安心していただけるように支援し、ご家族の方々にも満足いただけるように傾聴できる姿勢で、無理もきくことができるグループホームを目指している。

利用者様の可能性が引き出せるよう、興味のあること望むことへの支援と外出を多く取り入れている。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や運営方針に基づいて、日々の業務に就くように指導されている。 実践できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動への参加や、ホームの行事等への招待など、交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々にグループホームの存在を認識していただき、高齢者の困りごとなど相談を受けたりさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームとしては町内会の方などへ定期的（会議など）に支援方法などを説明している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の回数自体が少ないが、近隣や利用者、職員は常に前向きに考えてサービスの向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何か？などミーティングなどを通して確認しあうと共に、日頃から拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、ミーティングなどや研修などで学ぶと共に、日々防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学ぶ機会があり、ミーティングにて伝達講習をおこなう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居前に時間をかけて家族に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と接した際や、日々の利用者との関わりの中で意見や要望に耳を傾けている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒヤリングを職員から行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境の整備を十分ではないが努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分ではないが努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者と情報交換し職員を見学させたり、見学の受け入れをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望などスタッフ同士で情報交換し、より安心していただけるサービスの向上に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を活かし、不安や要望をいち早く受け入れるように努めている（ご家族へのケア）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の求めているもの要望を常に見極めて支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリや家事手伝いへの参加等、御本人が役割や意欲を持てる環境作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換や、情報を共有することにより、利用者にとってより良い生活支援を提供出来る様に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との、定期的な再会、馴染みの場所への定期多岐な訪問など出来ている利用者様もいる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が円滑かつスムーズに運ぶ様に、スタッフが必要に応じて仲介したり、橋渡しをしたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去されて、医療機関にて治療されている方には見舞ったり、他界された方には焼香させていただいたりといったお付き合いをさせていただいている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやもうし送りなどで、本人の思いや言葉をスタッフ一人一人が共有するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や、ご家族様からの情報により、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	異変や、些細な変化などに気づく様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画やモニタリングなどに、目は通しているが、日々のケアファイル記載など、個々（スタッフ）により、差がある		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアファイルなどを通して、その日、その時の様子を残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に応じた外出の希望に柔軟に対応している、外食にも出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、商店、買い物、スーパー、ドライブ外出などを通して、地域資源を活用		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診他、個々の利用者さまによってかかりつけ医への受信を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師はいませんがリーダーや管理者の対応で提携医療機関のDrかNsに連絡を取り相談・指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一スタッフとしては、お見舞いを通してご本人様への安心を呼びかける支援程度		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームから医療機関へいかれることが大半であるが、十分な話し合いを設けて支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前の外部研修や、知識実践など、他に個別でテキストなどを通して、忘れないように勉強		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や、会議の際に体制の確認を行っている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々子供を扱うときのような言葉遣いになったり、命令的になってしまっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を与えたり、手を貸す前に何をしたい(望んでいる)のか見極めるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や流れを優先していることがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や基本的な身だしなみには配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共有する様に努めているが、時間が無く、手早く自分で準備、盛り付けをしたり、食事が始まって洗い物をしたりしている事		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握や、確保に努めている。バランス良く取れるように献立にそって作っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として御自分で行う人や、声かけを行う人もいるが、半数は出来ていない		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や、声かけなどを行っているが、充分ではない		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	根菜類や、繊維質の食材を積極的に使うようにしたり、歩行運動の働きかけなどを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は職員側の人数の都合などで、制限してしまっている部分がある。希望は出来るだけ伺う様にしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息、昼寝の他、夜間眠れない方への安心の提供や支援の工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について、または副作用について完全に理解、把握できていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリや家事手伝い、趣味活動などを通して、生活の変化、楽しみを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行っているが、本人の希望にそってや、家族や地域の人々と協力しながらの外出は不十分である		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が小遣い程度に所有している方もいるが、全員に適切な支援は出来ていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援は要望に応じているが、手紙のやり取りは殆んど出来ていない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、食卓、浴室など、次に使う方が気持ちよく使用できるように衛生に配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチでのくつろぎや、ソファでの休息、又は自席以外での気の合う同士での談笑などを行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃などは行っているが、特別工夫を凝らした支援は出来ていない		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性に配慮したり、「トイレ」「洗面所」など分かり易い様にしている		

目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの月寒

作成日：平成 22 年 8 月 3 日

市町村届出日：平成 22 年 8 月 5 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害対策 今年度は4月に消防訓練、地域住民に訓練の様子をみて頂いているが、全職員の消火訓練の実施が行えていない	消防署協力のもと、職員の消火訓練実施。 夜間想定避難訓練を主に実施し、事業所内でもミーティング等で今以上の認識を深める。	ミーティング時に捕らわれず、日常の中で防災の危険認識を養う。	5ヶ月
2	45	入浴を楽しむことができる支援 現在曜日を問わず午後の時間で設定し利用者の希望や状況に合わせ支援しているが、入浴拒否が多く見られる場合の記録の記載法に問題	実施状況記録を整備する。	実施状況記録を作成し、支援状況を把握し衛生保持に努める。	2ヶ月
3	4	運営推進会議の実施 今年度は2月6月の実施となっている	2ヶ月毎の実施	2ヶ月毎の実施に向け関係者及び関係機関との連絡調整を行う。	2ヶ月毎
4	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 利用開始時に継続的な医療行為発生への対応困難等の説明はしているが、書面確認は行えていない	入居時や事由発生時の重度化・終末期に対しての事由書類作成	事由発生時等には書面にてご家族、利用者様に説明し内容を共有する。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。